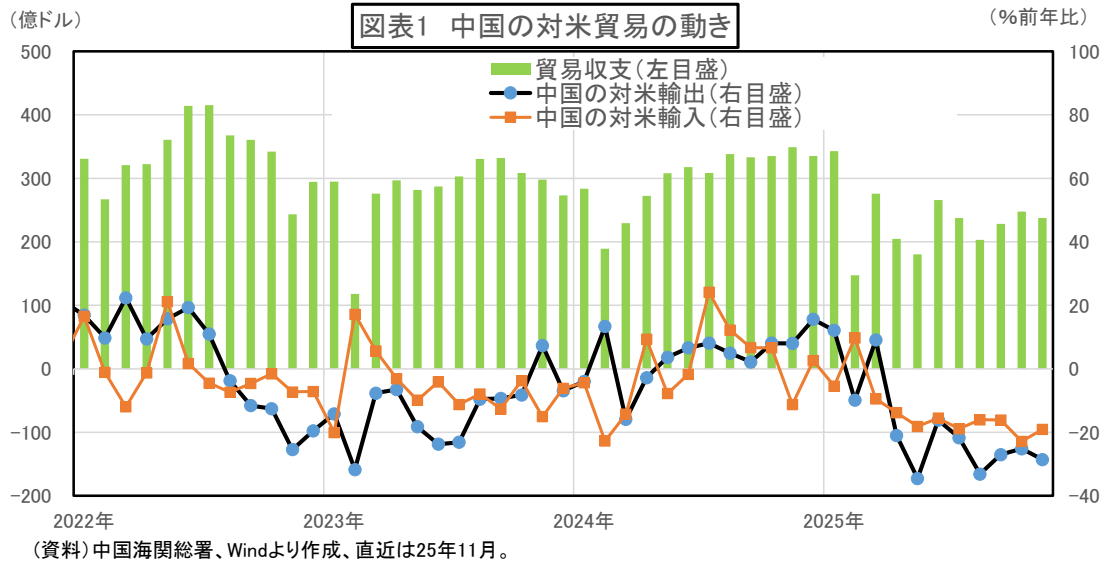
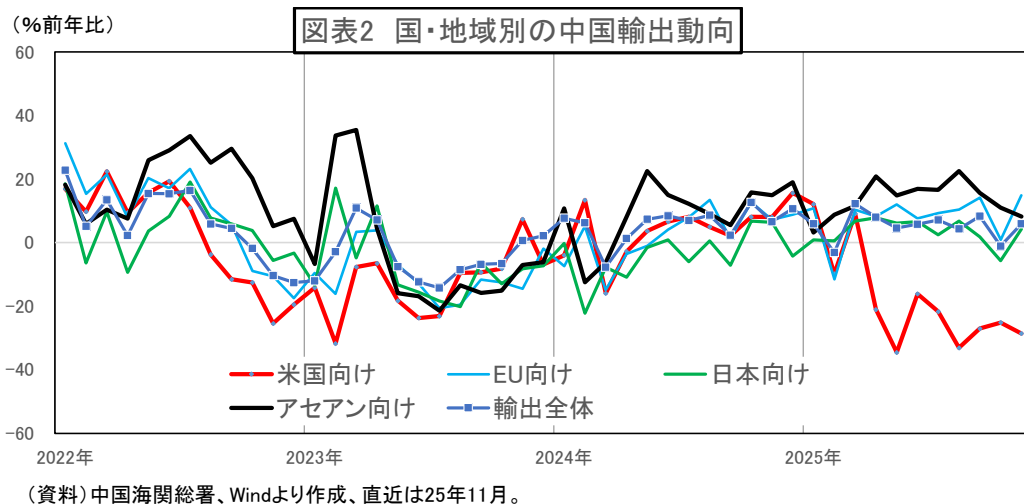


(中国)対米輸出は8か月連続の前年割れも、輸出全体は堅調を維持



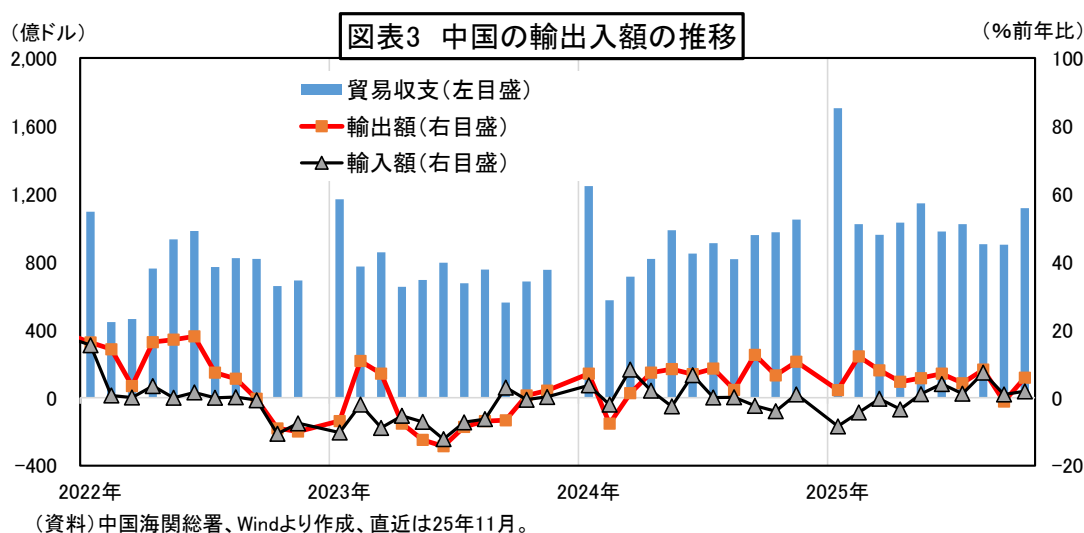
中国の対米輸出は、米中通商摩擦の「休戦」にもかかわらず、高関税の影響などから回復には時間を要すると思われる。中国海関総署が12月8日に発表した輸出入統計によると、25年11月の対米輸出(ドル建て速報値)は前年比▲28.6%、8か月連続の前年割れとなった(図表1)。また、対米輸入も同▲19.1%と低迷が続いている。



一方で、米国以外の輸出先は底堅さを維持している。シンガポールやベトナムなどアセアン向けの輸出額は同8.2%と10月から鈍化したものの、底堅く推移した。さらに、EU向け輸出は同14.8%と大きく伸びたほか、日本向け輸出も同4.3%とプラスに転じた(図表2)

その結果、11月の輸出額は同 5.9%と、10月の同▲1.1%からプラスに転じ、市場予想(同 3.8%)を上回った(図表 3)。世界的な AI 投資ブームや中国国内製造業の高度化を背景に、半導体、自動車、船舶の輸出が大幅に伸びたことは輸出全体を押し上げた。なお、11月のレアアース(希土類)の輸出量は前月比 26.5%の 5,494トンとなっている。

一方、11月の輸入額は同 1.9%と 10月の同 1.1%から小幅ながら加速したものの、不動産不況の長期化や雇用・所得環境の厳しさを背景に内需は依然として弱い。輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字は 1,117 億ドルで、25 年 1～11 月期の累計では 1 兆ドルを超えた。



今後の輸出については、政府や業界による「反内卷」政策の推進により、輸出価格の下落に一定の歯止めがかかる可能性がある。また、米中対立の緩和や米国の在庫補充需要などを踏まえると、対米輸出の減少幅縮小も期待される。これらからは、中国の輸出全体は当面底堅さを維持する可能性が高いとみている。